

## ノビタキ（ヒタキ科） 全長13センチ

9月も下旬に入ると秋の渡りのシーズンで、大仙市内にも様々な渡り鳥が飛来します。

一番早く現れたのがコガモで、2番目に飛来したのがノビタキでした。春のノビタキは雄雌の羽がはっきりと区別されるが、秋の渡り時にはどちらも茶褐色でよく似ている。頭や顔の黒みが多いのがオスで、メスは明るい顔立ちで目の縁どりがチャーミングに見える。

田んぼや畑などでよく見かけ、素早く移動しながら周辺の草丈より少し高いススキや杭などに留まる習性があります。観察するには好都合である。



メスは目の縁取りがくっきりとして、優しい顔立ちです。

高い場所から昆虫などの餌を探し、頻繁に地面に降りるのを繰り返していた。

直ぐそばをトンボやチョウなどが飛び交っていたが、ノビタキにとっては餌の仲間である。畑のノビタキは、野菜の葉っぱの中に隠れている青虫を引っ張り出して食べていた。



周囲より高めの枝先に留まる、オス。



ヨモギに向かう。白斑が目立ちます。

まだまだ餌には不自由しないでしょう。

やがて体力をつけ、寒さが厳しくなる前には南に渡ってしまうでしょう。



目の前を横切るトンボを見つめる。



野菜に潜む青虫を引っ張り出した。